

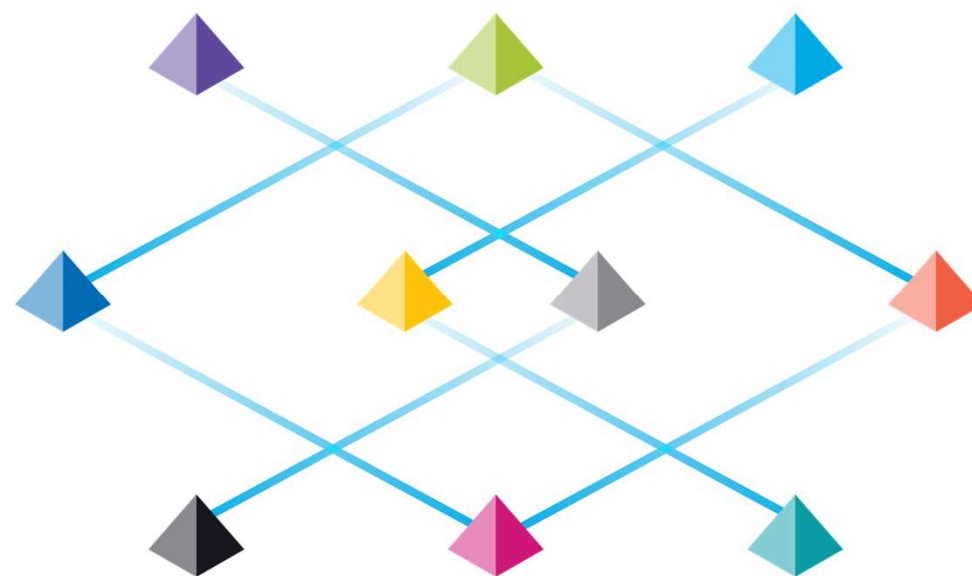


Blue Prism 導入方法論

ROMのご紹介

2023年2月14日
Blue Prism株式会社
Professional Services – Sunghyuck Lee

Commercial in Confidence



目次

1. デジタルワーカー導入プロジェクトにおける課題
2. Blue Prismのアプローチ
 1. ROMとは
 2. ROMの7つの要素
3. 先ず最初に取り組むべきポイント
 1. 構築方法論の基礎
 2. スキル蓄積の仕組み作り
 3. 組織の役割定義とガバナンス

2 Commercial in Confidence

3

ss&c | blueprism®

デジタルワーカー導入プロジェクト
における課題

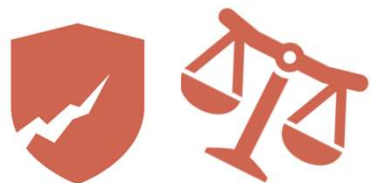
2

3

成功の阻害要因

デジタルワーカー導入プロジェクトにおける課題

ロボットが止まる。落ちる



エラーが頻発する
リカバリは最初からやり直し



運用工数の増大

修正の工数が増大

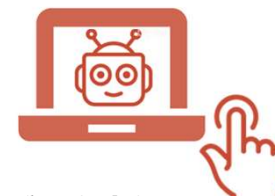


個人が好き勝手に開発
画面の一部の変更で全て作り直し



開発・修正
工数の増大

負荷増大に対応できない



人が手動実行している
並列処理による負荷分散ができない



拡張できない

3 Commercial in Confidence

3

4

Commercial In Confidence

成功の阻害要因

デジタルワーカー導入プロジェクトにおける課題

情報漏洩事故が発生



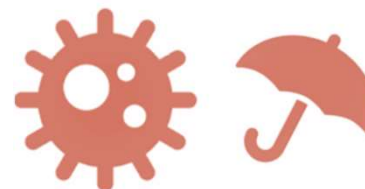
統制管理が取れない
ログ・監査も不正



セキュリティリスクに対応できない

重大なセキュリティリスクを発生

基幹システム・業務を止めた



高負荷な処理の実行を見抜けない
未完成のロボットを本番環境でテスト



統制がとれない

業務停止を引き起こす
復旧に莫大なコスト発生

4

Commercial in Confidence

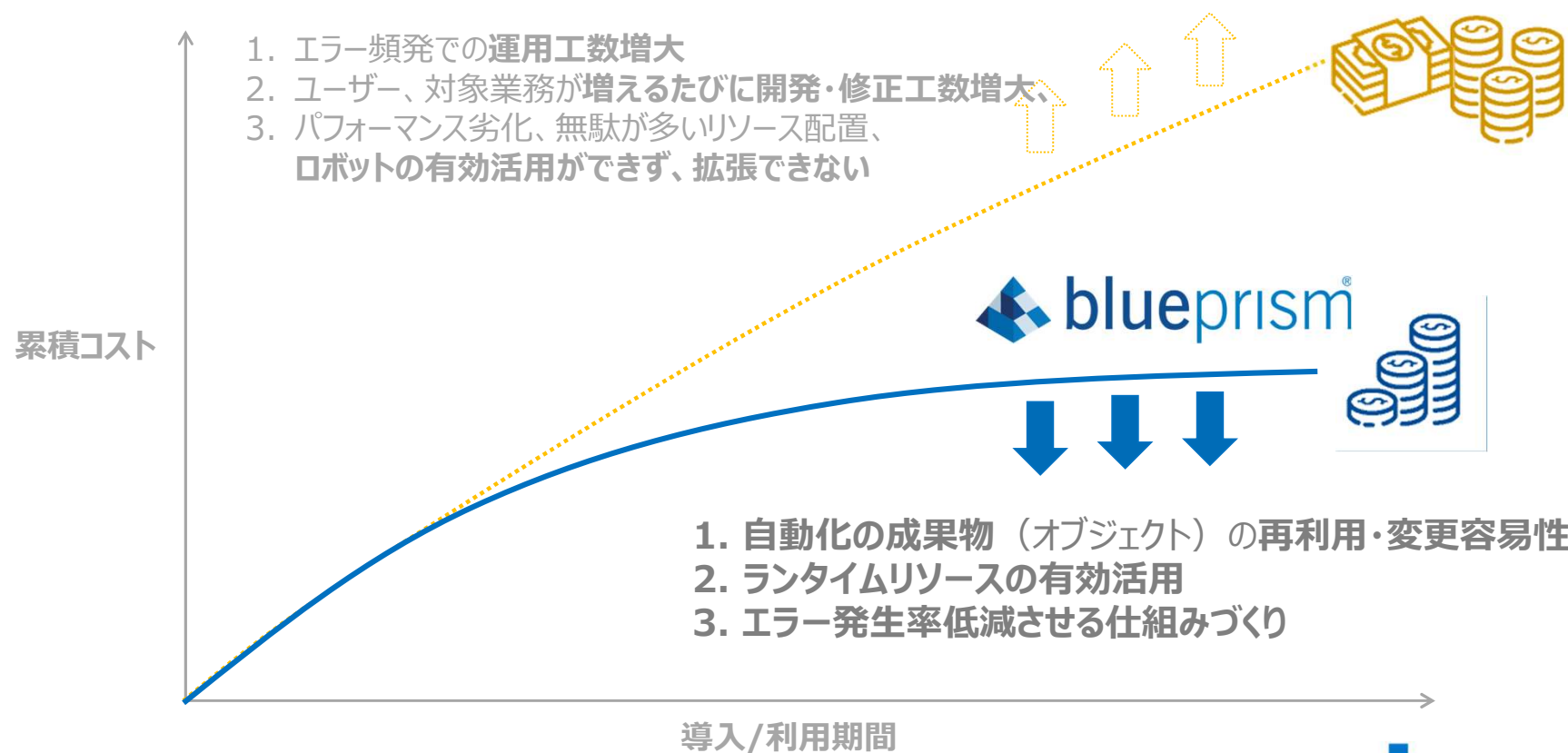
ss&c | blueprism®

4

5

Commercial In Confidence

デジタルワーカー導入の成功とは



5 Commercial in Confidence

ss&c | blueprism®

5

6

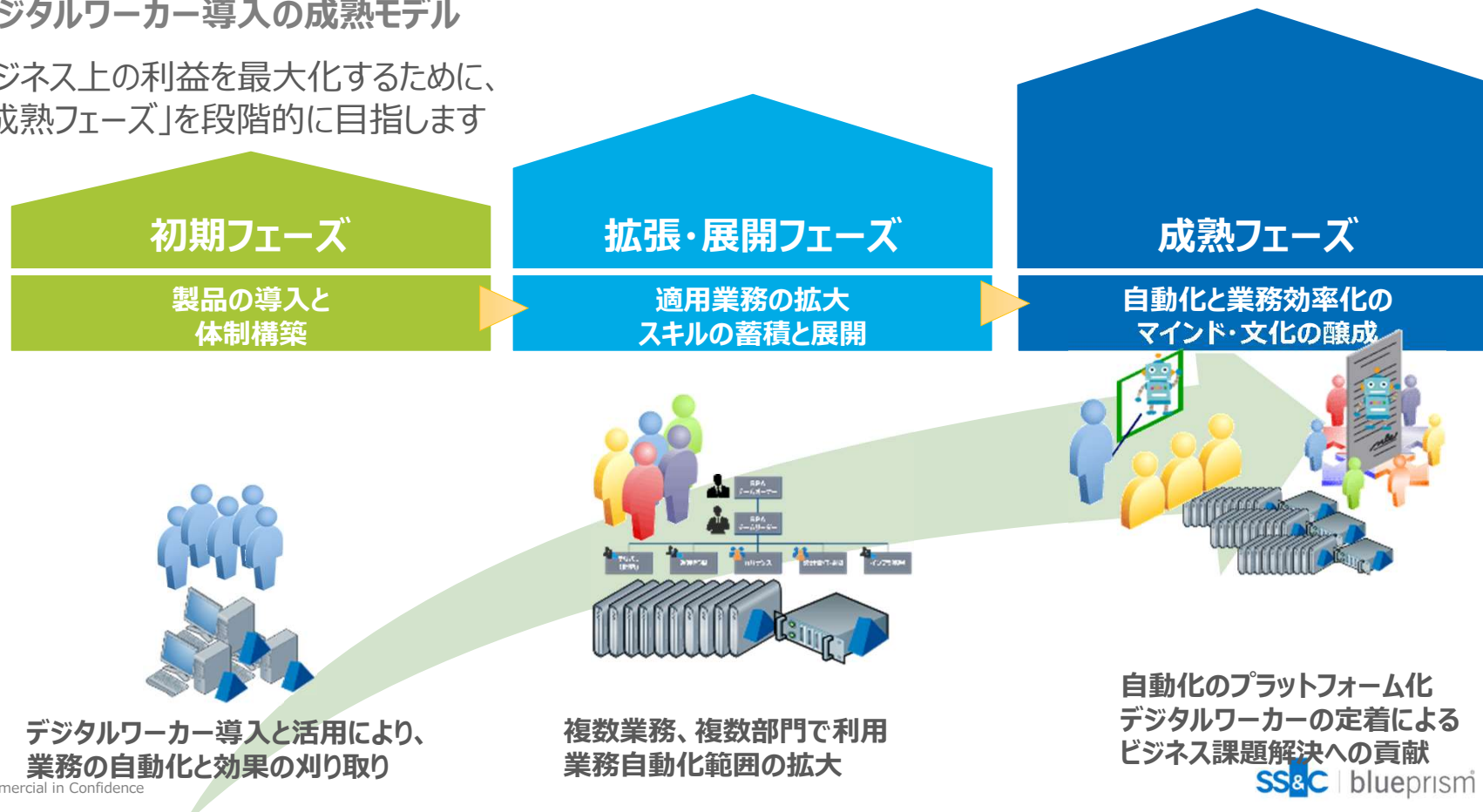
Commercial In Confidence

Blue Prism.com

導入 - 展開、成熟フェーズへ

デジタルワーカー導入の成熟モデル

ビジネス上の利益を最大化するために、
「成熟フェーズ」を段階的に目指します



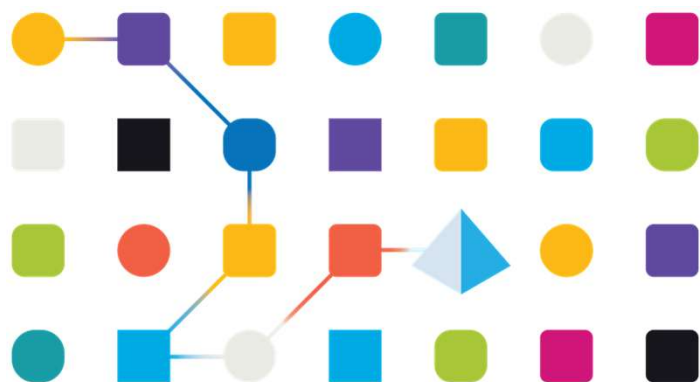
6

Commercial in Confidence

6

7

Commercial In Confidence



Blue Prismの アプローチ

ロボット運用モデル「ROM」

7 Commercial in Confidence

ss&c | blueprism®

7

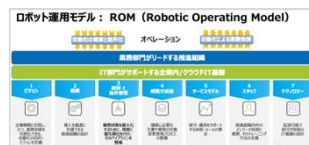
8

Commercial In Confidence

ロボット運用モデル：ROM (Robotic Operating Model)



2001年
Blue Prism 創業
バークレイズ銀行様
自動化プロジェクトに参画



2008年
導入・展開メソッドロジ
であるROMを確立・
展開開始



2012年
チーフ エバンジェリスト
Pat Geary が
RPAという言葉を定義



2017年
日本オフィス開設

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020



2005年
お客様からのご要望を受け
オブジェクト型へ
アーキテクチャーを刷新

2016年
ロンドン証券取引所
AIM上場



2019年
SaaS モデル
Blue Prism Cloud
発表



8 Commercial in Confidence



ロボット運用モデル：ROM（Robotic Operating Model）

7つの要素で構成される、Blue Prism独自の導入方法論「ROM」は、Blue Prism導入の成功、ユーザのビジネス拡大へ貢献する仕組みを構築します



業務部門がリードする推進組織

IT部門がサポートする企業内/クラウドIT基盤



9 Commercial in Confidence

SS&C | blueprism®

9

10

ROM

1. ビジョン

ビジョン

組織

統制と
案件管理

構築方法論

サービスモデル

スタッフ

テクノロジー

業務プロセス自動化＝「デジタルワーカー導入」のビジョンを定義します

想定できるビジネス上の利益が何かを明確化します。また、それが企業の全体戦略と一致していることを確認します

デジタルワーカー導入によって得られるビジネス上の利益

業務効率化と生産性の向上

- ・プロセス自動化が人間の処理能力を解放し、効率化を実現
- ・人間が、高価値な判断・決断業務や顧客との関係強化に、より集中できる

業務オペレーションの変化への敏捷な対応力の向上

- ・自動化されたプロセスの開発とデプロイが迅速に行われ、コンポーネントは再利用可能
- ・どんなアプリケーションとも接続可能
- ・ロボットは集中管理され、ピーク需要に合わせて自由に再配置可能

業務オペレーションリスクの削減

- ・品質と一貫性を高い次元で確保
- ・プロセス自動化が業務の標準化とベストプラクティス実現を促進
- ・処理エラーの完全な撲滅

より高度な統制、ガバナンス、ITセキュリティ

- ・各ユーザが手に持っているファイルデータが集中管理される
- ・顧客データなどセキュリティ・プライバシー管理を強化
- ・開発と運用とでロールを明確に分離・分割

ビジネス・業務オペレーションのより深い洞察

- ・業務オペレーション操作ログを取得することで得られる、より精緻な業務実態から、業務オペレーションの真の課題解決につながる分析・洞察を提供

戦略との一致

自動化の導入目的とゴールが、企業組織全体の戦略・ビジョンとどう一致しているかを明文化する

想定されるビジネス上の利益を予測する

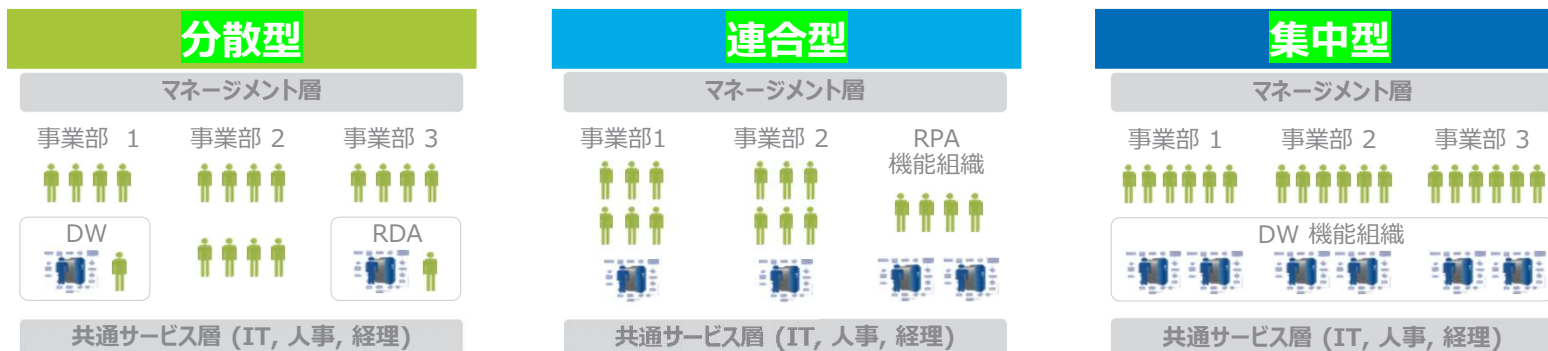
デジタルワーカー導入で得られるビジネス上の利益が、マーケットにおける差別化につながることを確認する

ROM

2. 組織



デジタルワーカー導入を的確に**効率的に実現できる組織体系を定義**します
 この組織体系は、企業全体戦略やその企業が持つ文化と合致していることが必要です



強味

弱点

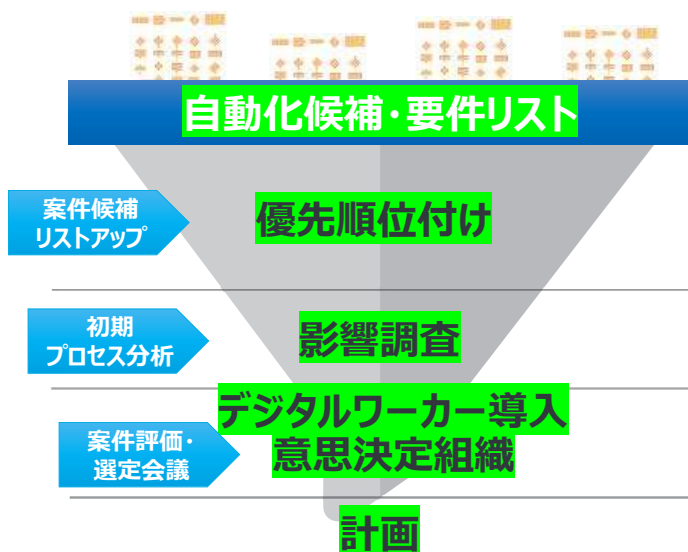
- 分散型**
 - 低コスト
 - 特定の部門のみで、部門間で相関が不要な業務に適合
- 連合型**
 - 低コストかつスケーラブルな自動化を複数の部門に跨って実装し、中心の標準化された仕組みを利用する
 - 業務部門がオーナーシップと責任持ち続けるが、ロボティクスプロセスは共有の機能を利用する
- 集中型**
 - 低コストかつスケーラブルな自動化を全社横断で実装し、中心の標準化された仕組みを利用する
 - CoEが存在する企業にて効果が発揮される

ROM

3. 統制と案件管理



自動化対象業務プロセスの **アセスメント基準、選別・格付け手順を定義** します
 自動化対象業務プロセスの数を最適化することで、ビジネス上の利益を最大化します



プロアクティブなトリガー

自動化要件創出

- プロセスの開示
- 機会の精査
- ビジネス事例

受動的なトリガー

- A. ビジネスプロセスの変更
- B. システム変更

- A. 自動化要求
- B. 自動化 CI イニシアティブ
- C. 変更プログラム

- 要求への優先順位付け（より広範な業務からの要求か、外部のIT管理からの要求か、などを検討材料とする）

- 構造的な影響調査プロセスに則り行う。実施することによって得られるビジネス上の利益、開発・運用サポートコストを検証する。オーナーシップを特定する。企業の戦略との一致状況、実装しなかった場合の影響、既存の業務への影響についても検証する。

- ステークホルダーを集め、レビューを行う。戦略的なビジネスドライバーと成り得るかの観点で議論する
- DW責任者が議長となり、業務部門、IT部門と変更依頼担当で構成される会議体にて行う

- 自動化PJ変更計画を策定し、管理する。ビジネス上の利益の最大化と構築・導入リソースの供給力、既存のプログラム等の再利用性を検討し、計画する。

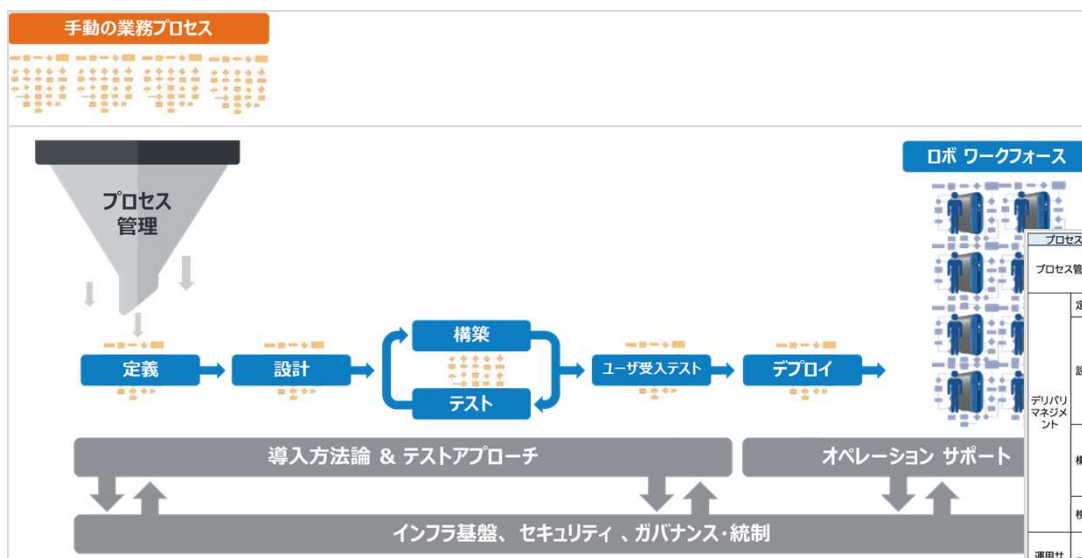
- DW責任者と自動化管理者が、計画策定、進捗管理、全ステークホルダーの期待値管理に対して、責務を負う。

ROM

4. 構築方法論



デジタルワーカー導入に特化した構築方法論の策定とその適用方法を定義します
 また、用意された成果物テンプレートやポリシーを既存の変更管理プロセスに組み込むことで、標準化します
 定義された方法論が的確にかつ効率的に利用されていることをトラッキングするための管理の仕組みを定義します



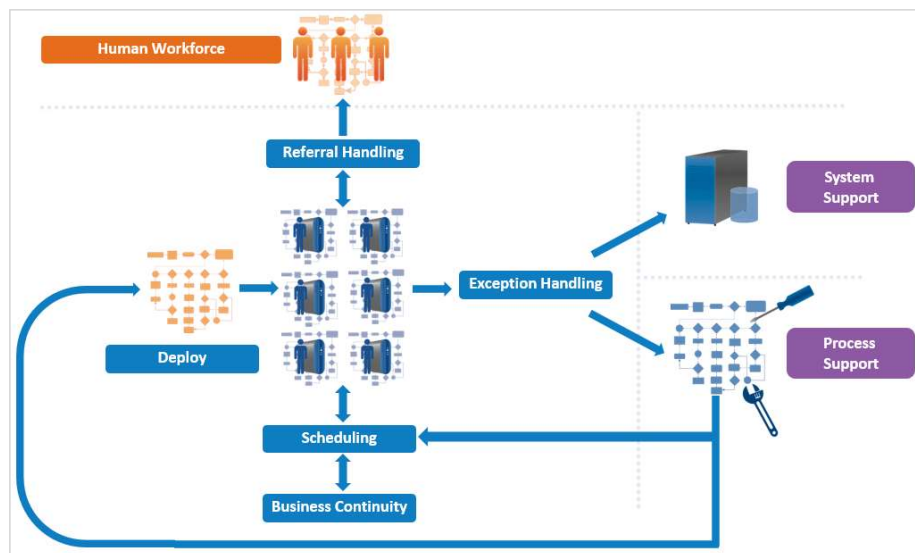
プロセス	成果物/活動	説明
プロセス管理	初期のプロセス分析 (IPA)	プロセス側に変更可能性、範囲、複雑さ、労力、および予測可能なコストを定義
	アプリケーション評価	RPAチームにクライアントのホストシステムを評価する機会を提供し、獲得した知識がデリバリーコストおよびサポートコスト算出に役立たせようとする
定義	ビジネスケース	プロセス評価の結果を財務的観点に翻訳し、プロジェクト計画に関する情報を提供 (労力やコスト内訳)
	プロセス定義書 (PDD)	自動化を促進し現在のビジネスプロセスの流れをキーストローレベルでキャプチャし、設計要件を作成
	機能要件アンケート (FRQ)	ビジネスの需要を満たしつつ、プロセスソリューションを無人で動作させるための機能を文書化
設計	オブジェクト設計指示書 (ODI)	オブジェクト固有のすべてのアクション、それらのアクションに対するすべての入出力など、Blue Prism の単一のビジネスオブジェクトの詳細
	プロセス設計指示書 (PDI)	Blue Prismソリューションをサポートするために使われる、Blue Prism のプロセス、コンポーネント、ビジネスオブジェクト、作業キューおよび認証情報の詳細
	ソリューション設計書 (SDD)	Blue Prism製品によるソリューションの構築方法についての高レベルの詳細だけでなく、ソリューションに必要なその他の成果物の詳細と詳細な包括的文書
	運用への影響に関する文書 (OID)	自動化ソリューションの構築による運用への影響の詳細
デリバリー/メンテナンス	設計責任者 (DA)	開発の一貫性、その構成要素であるプロセスおよびオブジェクトを維持し、利用可能なオブジェクトやプロセスに反映させるための一元的表示またはライブラリの更新を行う責任者
	ピアレビュー委員会	展開フェーズおよびテストフェーズですべてのビルドエレメントのサポートおよび検証を行う、Blue Prism 開発チームのアドバイザーおよび管理者のいずれの役割も担う
	ビルドレビューチェックリスト	プロセスの堅牢性、回復性、拡張性、可管理性を向上させるために重視すべき分野に関するフィードバックを提供する
構築	開発ベストプラクティス	プロセスおよびオブジェクトの開発において採用すべき基本的なベストプラクティスについて説明するガイド
	開発テストプラン	テストプラン、シナリオカバレッジからテストに至るテストフェーズで使用され、テストで行われるテストケースにシナリオの範囲適合性を反映させる
検証	検証テストプラン	オペレーション開始の立会いの下、管理された方法でテストケースを段階的に実行するよう、関連するすべてのシナリオがキャプチャされるテスト状況を作成および文書化する
	UATプラン	正常終了に基づいて徐々にボリュームを増やしていく、単一のケースの処理から始める管理テスト
運用サポート	リリースノート	Blue Prismリリースパッケージをテストに送る (プロセス開発の生産物など)
	運用手引き	プロセスを実行する人への、通常の日常運用環境における特定の自動化プロセスの実施に関する指示、情報およびアドバイスを提供
技術インフラ、セキュリティおよび統制	プロセスリリース受け入れ	プロセスを環境に移行および展開する前にチェックおよび受け入れ用のリリースを作成できるようにする
	アーカイブおよびバックアップポリシー	導入/テストの前後や実施に対象となるシステムを定義する、プロジェクトが完了して導入/テストの詳細
技術インフラ、セキュリティおよび統制	プロセスロギング設定ポリシー	プロセスロギングの発生およびビジネスアプリケーションのシリアリティのためのガイド
	セキュリティポリシーおよび手順	プロセスにおけるステージのロギング設定および各デプロイ環境のオブジェクトのガイダンスを提供
技術インフラ、セキュリティおよび統制	第1原理からデジタルワークフォースのサポートを急遽に提供された、堅牢、優れた拡張性、強力で柔軟性のあるプラットフォームを再構築する、セキュリティポリシーおよび手順の構築	第1原理からデジタルワークフォースのサポートを急遽に提供された、堅牢、優れた拡張性、強力で柔軟性のあるプラットフォームを再構築する、セキュリティポリシーおよび手順の構築

ROM

5. サービスモデル



業務プロセスをサポートする体制・ルールを策定し、人間とロボの生産性を最適化します
 運用管理・レポート・スケジューリングの定義を行います



14 Commercial in Confidence

作業対象

アクティビティ	役割と責務
Referral Handling	範囲外のシナリオへの対処を業務部門メンバーが行う
例外処理	Blue Prismが実装通りに動かない場合など、予期せぬシナリオへの対処を開発者が行う
スケジューリング	BPコントローラが負荷状況と要求量からロボリソースのワークロードを管理する
ビジネス継続	フェイルオーバー、回復、ディザスタリカバリをインフラチームが行う
デプロイ	RPAチームがテストとプロダクション環境への適用を行う
システムサポート	アプリケーションで発生する問題はITチームで管理・解消される
プロセスサポート	プロセス自動化で発生する問題はRPAチームで管理・解消される
製品サポート	Blue Prism製品の問題は、Blue Prismカスタマーサポートへチケットが上げられ、対応される

ss&c | blueprism®

ROM

6. スタッフ



デジタルワーカー **導入、運用、サポートのそれぞれの役割と責務の定義**を行います
 導入推進組織（構築、サポート） 要員のトレーニング方法の定義を行います

初期フェーズでの人員配置割合の一例

役割	役割概要	工数割合
プロジェクトマネージャ	Blue Prismの認定能力に則った、導入の管理業務を行う	5%
プロセスアナリスト	自動化対象業務の要件管理をリードし、プロセス定義策定やテスト支援を行う	10%
シニア プロセス開発者	Blue Prismのソリューション構築と関連する方法論のエキスパートとして、すべてのフェーズで開発をリードするまた、設計、開発、テスト、サポートを行う	25%
プロセス開発者	Blue Prismのソリューション構築において、設計、開発、テスト、サポートを行う	60%

ROM

7. テクノロジー

ビジョン

組織

統制と
案件管理

構築方法論

サービスモデル

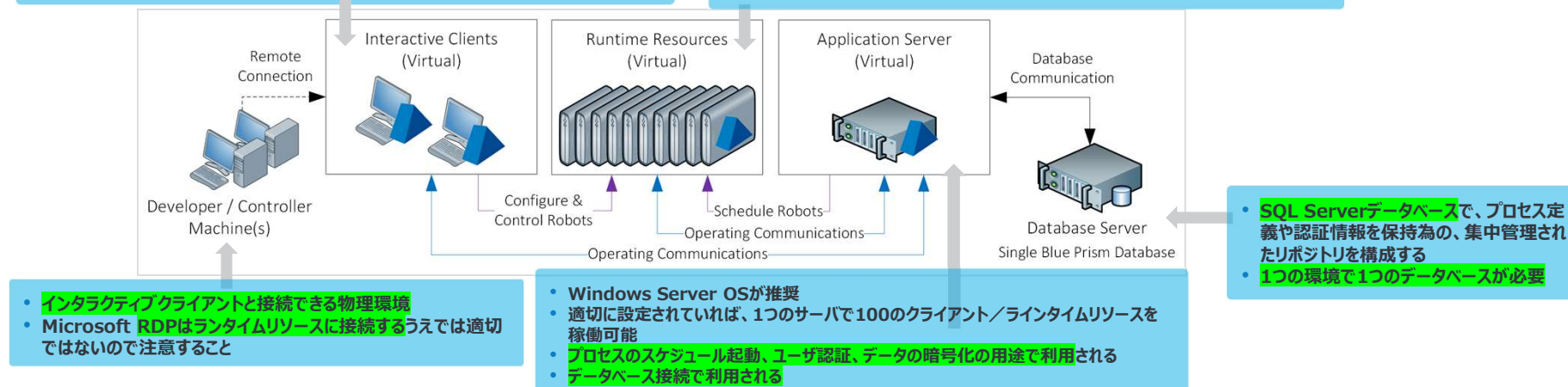
スタッフ

テクノロジー

スケーラブルかつメンテナンスコストを低く抑えることができ、**インフラ基盤の定義と導入・運用**を行います。
企業・組織の成長戦略に合わせて柔軟に拡張できるように設計します

- **Blue Prism 開発者 (1:1)で利用**される (構築・テスト用)。ビジネスアプリケーションがインストールされていること
- **プロセス管理者によりランタイムリソースの管理でアクセス**される
- 標準的なユーザデスクトップ環境 + Blue Prismがインストール済の環境
- **ローカルPCでも仮想環境でも可 (仮想環境を推奨)**

- **自動化されたBlue Prism プロセスが稼働**する
- 標準的なユーザデスクトップ環境 + Blue Prismがインストール済の環境
- **必ずビジネスアプリケーションが稼働**でき、適切なリソースが割り当てられていること
- **仮想環境であること、また、永続的に稼働**すること



16

Commercial in Confidence

ss&c | blueprism®

16

17

Commercial In Confidence

ROM – まとめ

ROMの特徴

デジタルワーカーの導入は、EUCあるいはその延長ではなく、DX（デジタルトランスフォーメーション）の一環であるという認識が重要です



単純な初期導入時だけにとどまらない、先を見据えた導入手法の明示
 「組織、ビジョン、稼働後の拡張、教育、統制まで包括的にカバーし、
 業務自動化・効率化を定着化させる」
 「拡張すればするほど、導入効果が増大化する」

支えるのは、IT部門、業務部門、経営層

ROM - まとめ

ROMによるデジタルワーカー導入で、スムーズに展開、成熟フェーズへ
 ビジネス上の利益を最大化するために、「成熟フェーズ」を段階的に目指します



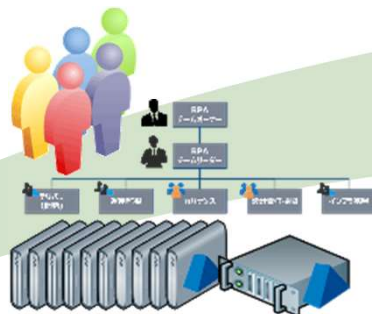
目指すべき
 ゴール

自動化のプラットフォーム化
 デジタルワーカーの定着による
 ビジネス課題解決への貢献

SS&C | blueprism



デジタルワーカー導入と活用により、
 業務の自動化と効果の刈り取り



複数業務、複数部門で利用
 業務自動化範囲の拡大





先ず最初に
取り組むべきポイント

ss&c | blueprism®

19 Commercial in Confidence

19

20

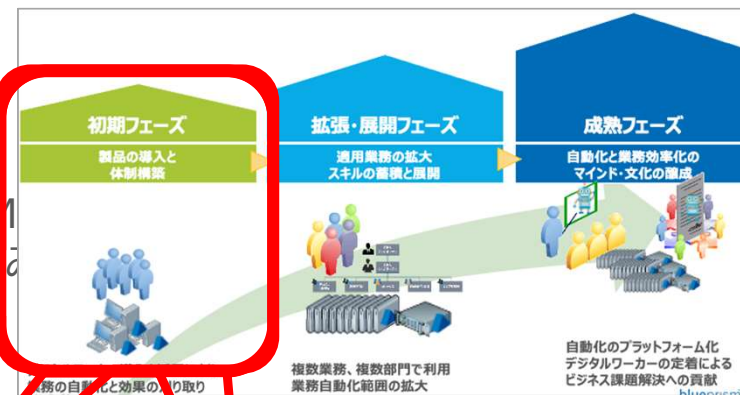
Commercial In Confidence

ロボット運用モデル ROM (Robotic Operating Model)

7つの要素で構成される、Blue Prism独自の導入方法論「ROM」
Blue Prism導入の成功、ユーザのビジネス拡大へ貢献する仕組み

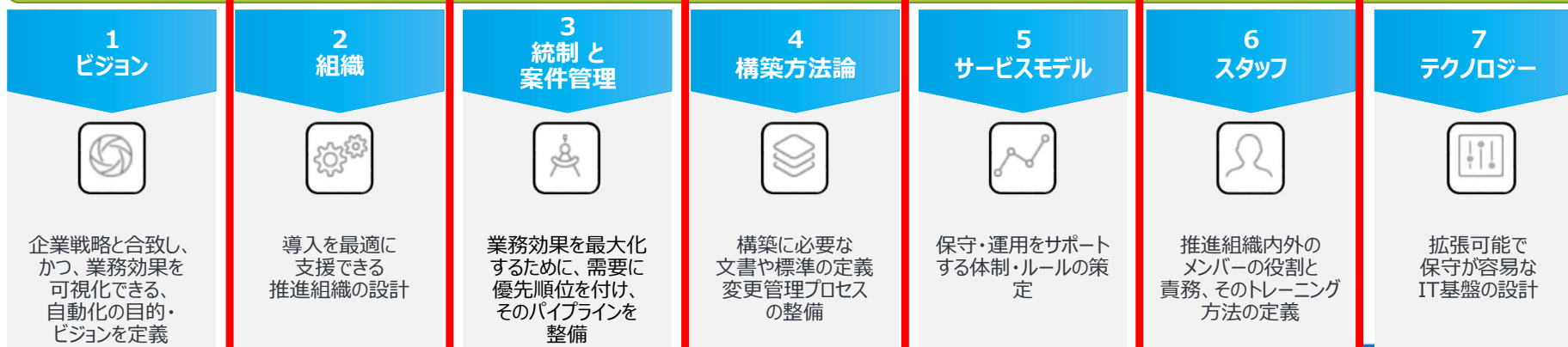
自動化の需要と案件化

オペレーション



業務部門がリードする推進組織

IT部門がサポートする企業内/クラウドIT基盤



1 ビジョン
企業戦略と合致し、かつ、業務効果を可視化できる、自動化の目的・ビジョンを定義

2 組織
導入を最適に支援できる推進組織の設計

3 統制と案件管理
業務効果を最大化するために、需要に優先順位を付け、そのパイプラインを整備

4 構築方法論
構築に必要な文書や標準の定義、変更管理プロセスの整備

5 サービスモデル
保守・運用をサポートする体制・ルール策定

6 スタッフ
推進組織内外のメンバーの役割と責務、そのトレーニング方法の定義

7 テクノロジー
拡張可能で保守が容易なIT基盤の設計

20 Commercial in Confidence

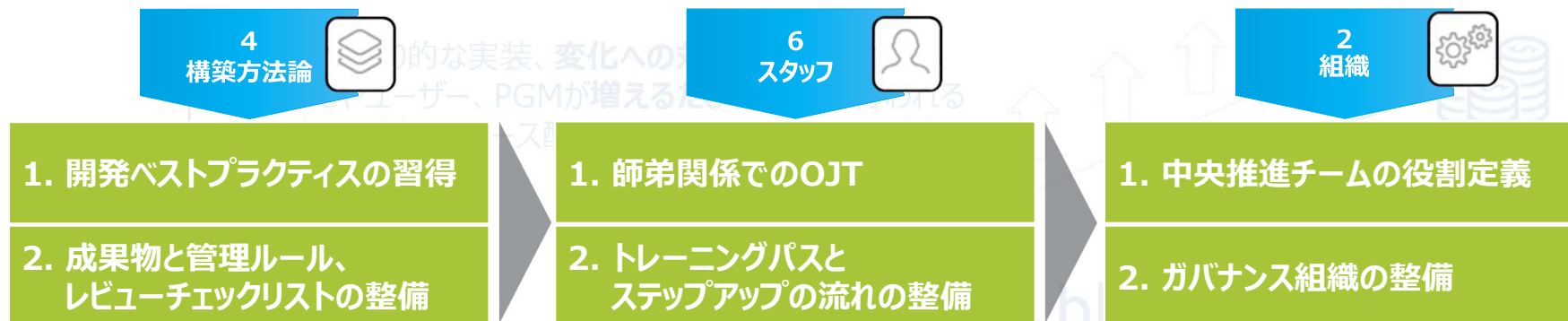
ss&c | blueprism

先ず最初に取り組むべきポイント

1. 構築方法論の基礎

→ 2. スキル蓄積の仕組み作り

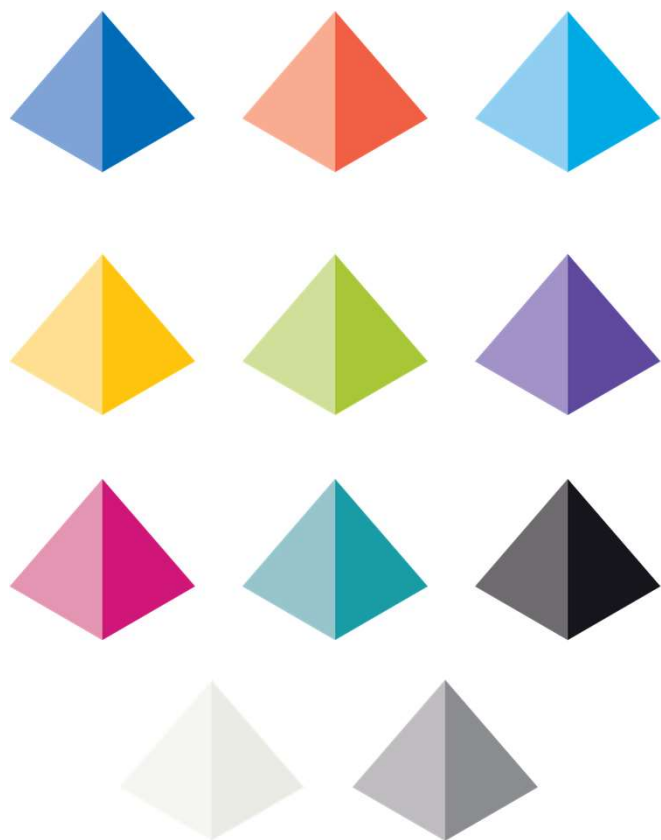
→ 3. 組織の役割定義とガバナンス



累積コスト



導入/利用期間



22 Commercial in Confidence

先ず最初に 取り組むべきポイント

1. 構築方法論の基礎

ss&c | blueprism®

22

23



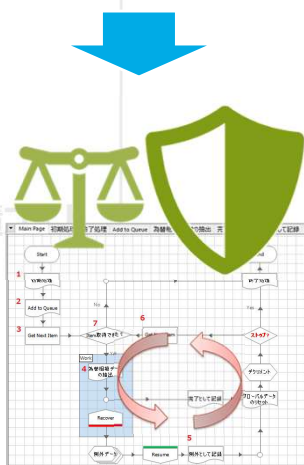
1-1. 開発ベストプラクティスの習得

再利用が可能で、効率的なデジタルワーカー構築を実現する、ベストプラクティス

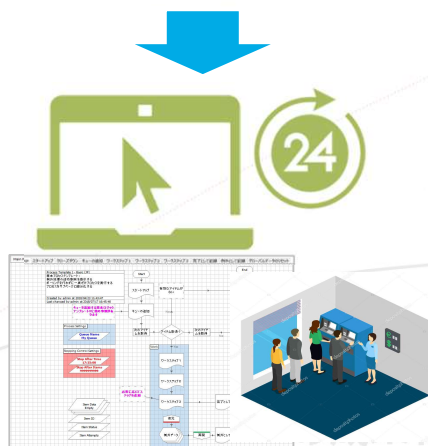
ロボットが止まらない、落ちない
耐障害性、回復性

負荷増大に対応する
柔軟性、拡張性

開発・保守を効率化する
再利用、共通部品化



① エラーハンドリング
「自動で回復、リトライ、続行」



② ワークキュー & テンプレートを使い
「排他・並列の仕組みを標準化」



③ 共通部品の作り方
「より小さく、ロジックを排除」



1-2. 成果物と管理ルール、レビューチェックリストの整備

フェーズ別成果物（設計文書類）テンプレート

Blue Prism標準で定義された導入手法の概要、成果物テンプレートなどをポータルサイトからダウンロードし、最適な手法での導入スキーム構築することが重要です

開発スケジュールの策定 - 開発工程とマイルストーン

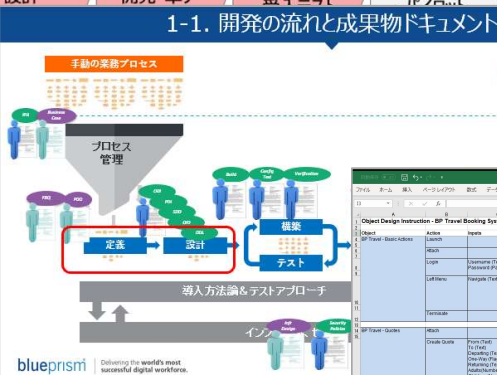
設計内容、開発内容について、それぞれ業務ユーザー様確認のマイルストーンを置き、パターンなどの要件の漏れを抑制しながら進める。



- 主な作業
- 業務プロセス確認
 - RPA適用可能範囲検討
 - (一部業務ステップ組替え等の検討)
 - 機成
 - 利

- 設計確認: 画面・システムに対する操作の流れを
- 開発確認: 実際のロボット動き見ての確認、バリエ
- 受入確認: 要件の正確性や処理スピード、エラー

*1 VBAマクロ処理や画面操作の流れが無い機能など、対
*2 開発確認は2回の枠を想定、1回目の指摘事項を元



Object	Action	Inputs	Outputs	Start Screen	End Screen	Notes
BP Travel - Search	Search	Search Criteria	Search Results	Search Screen	Search Results Screen	
BP Travel - Book	Book	Search Results, Booking Criteria	Booking Confirmation	Booking Screen	Booking Confirmation Screen	
BP Travel - Cancel	Cancel	Booking Confirmation	Booking Cancellation	Booking Confirmation Screen	Booking Cancellation Screen	



1-2. 成果物と管理ルール、レビューチェックリストの整備

フェーズ別成果物（設計文書類）チェックリスト

成果物を各フェーズにおいて、レビュー・承認する上で基準となるチェックリストを策定、公開することが重要です

No.	分類	
1	ROI算出要件	現状手作業でどの程度の時間が
2	操作、フロー	操作オペレーションが文書化されて
3		概要業務フロー図があるか
4		画面ショットベースのオペレーションが
5		数式、判断分岐の数、複雑度
6	自動化対象アプリケーション	対象アプリケーションの数
7		対象アプリケーション、テクノロジの種
8		対象アプリケーション名称
9		既存オブジェクトの再利用の有無
10	処理ボリューム	処理件数/日、件数/週、件数/月
11		推定最小件数（日別、週別など）
12		推定最大件数（日別、週別など）
13		ピーク時最大件数（日別、週別な
14	動作スケジュール	開始時刻
15		終了時刻
16		曜日
17		非稼働日の有無
18		対象アプリケーション側の都合などで、実行時
19	入力データ	ファイル種類
20		項目一覧等フォーマットの提供可否
21		値のサンプルの提供可否
22		提供方式（誰がどのように作成するのか、な
23		提供される頻度、時刻
24		提供されない場合の有無とその場合にどう
25		一度に提供される件数（レコード数、シート
26		一意に識別される項目の組み合わせ
27		セキュリティ上取り扱いに注意が必要なデー
28		重複が発生する場合の対応
29		入力データを処理後に退避するなど、保持し
30	出力データ	ファイル種類など、方式
31	ログ	どのようなログ情報が必要か
32	例外対応	エラーや不測の事態が発生する頻度（全体の何割程度か）
33		アラート（警告）、エラー発生時の通知方法と連絡先、またその対応（復旧）方法
34		Blue Prismが動作しない場合などのような影響があるか
35		過負荷を検出する仕組みの有無
36	テスト	テスト環境の有無
37		テストデータの有無

4. 設計規約ガイドライン

案件定義フェーズ成果物（PDD、FRQ） 主なチェックポイント

項目	確認事項	確認ポイント
要件定義	要件定義書が作成されているか	要件定義書の作成状況
画面設計	画面設計書が作成されているか	画面設計書の作成状況
データ設計	データ設計書が作成されているか	データ設計書の作成状況
プロセス設計	プロセス設計書が作成されているか	プロセス設計書の作成状況

3. 開発規約ガイドライン

開発者が開発時に遵守してはならない、開発ベストプラクティスの内容は次の通り。

項目	開発規約
命名	命名規約は以下の通りとします。
変数	変数名は、大文字と小文字を併用し、単語は下線で区切る。
関数	関数名は、大文字と小文字を併用し、単語は下線で区切る。
オブジェクト	オブジェクト名は、大文字と小文字を併用し、単語は下線で区切る。

4. 設計規約ガイドライン

アプリケーション設計書（SDD） 主なチェックポイント

項目	確認事項	確認ポイント
要件定義	要件定義書が作成されているか	要件定義書の作成状況
画面設計	画面設計書が作成されているか	画面設計書の作成状況
データ設計	データ設計書が作成されているか	データ設計書の作成状況
プロセス設計	プロセス設計書が作成されているか	プロセス設計書の作成状況

PROCESS REVIEW

Process Name: 20230217_01_12

Item	Description	Review	Status	Review Date	Review By
1	Requirement Review	Requirement Review	Pass	2023/02/17	SS&C
2	UI Review	UI Review	Pass	2023/02/17	SS&C
3	Process Review	Process Review	Pass	2023/02/17	SS&C
4	Integration Review	Integration Review	Pass	2023/02/17	SS&C
5	Security Review	Security Review	Pass	2023/02/17	SS&C
6	Performance Review	Performance Review	Pass	2023/02/17	SS&C
7	Compliance Review	Compliance Review	Pass	2023/02/17	SS&C
8	Accessibility Review	Accessibility Review	Pass	2023/02/17	SS&C
9	Documentation Review	Documentation Review	Pass	2023/02/17	SS&C

1. 構築方法論の基礎

参考資料

4
構築方法論



- Blue Prism - Development Best Practice (Japanese)

<https://portal.blueprism.com/documents/blue-prism-development-best-practice-japanese>

- Note-開発ベストプラクティス

[Blue Prism ベストプラクティス | Blue Prism 公式 note | note](#)

- 開発ベストプラクティスWebinar

[Blue Prism University | Course Overview](#) ⇒ 「開発ベストプラクティス」で検索

- Blue Prism - Solution Design Overview (Japanese)

<https://portal.blueprism.com/documents/blue-prism-solution-design-overview-japanese>

- Delivery Roadmap (Japanese) ※設計・構築工程で作成が推奨されるドキュメントとその概要

<https://portal.blueprism.com/system/files/2018-04/Delivery%20Roadmap%20%28Japanese%29.pdf>

- プロセステンプレート ※プロセス作成開始時での利用が推奨される雛形

<https://portal.blueprism.com/products/developer-jumpstart>

- 設計書テンプレート ※設計工程での利用が推奨される雛形

<https://portal.blueprism.com/documents/standard?title=Design&category=All&lang=1384>

26

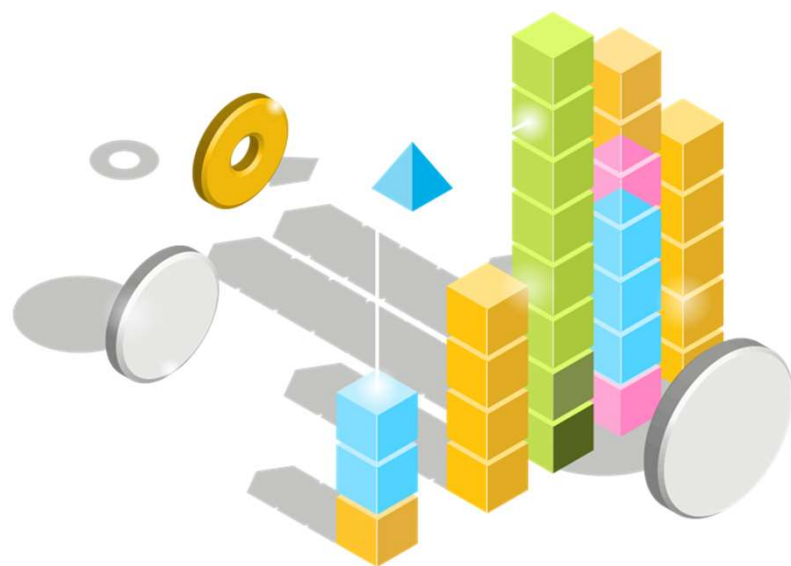
Commercial in Confidence

ss&c | blueprism®

26

27

Commercial In Confidence



27 Commercial in Confidence

27

先ず最初に 取り組むべきポイント

2. スキル蓄積の仕組み作り

28

Commercial In Confidence

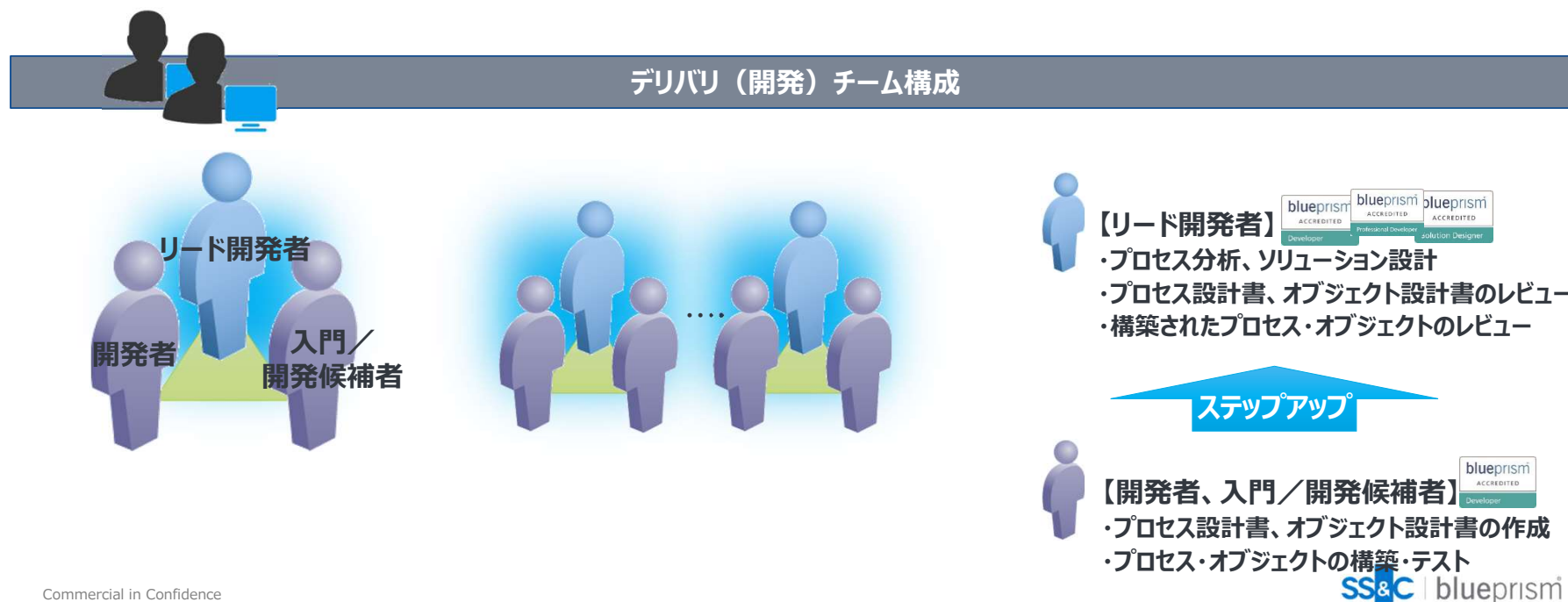
2-1. 師弟関係でのOJT

開発チームのモデルケース

6
スタッフ



導入推進体制の中で、特にリソースが集中し、管理を適切に行う必要があるのが、「デリバリ（開発）チーム」です。デリバリ（開発）チームは、リード開発者と一般開発者、入門開発者の組み合わせで階層構造となっていることが求められます。これにより、人材の育成と組織の拡張が効率的に行われます

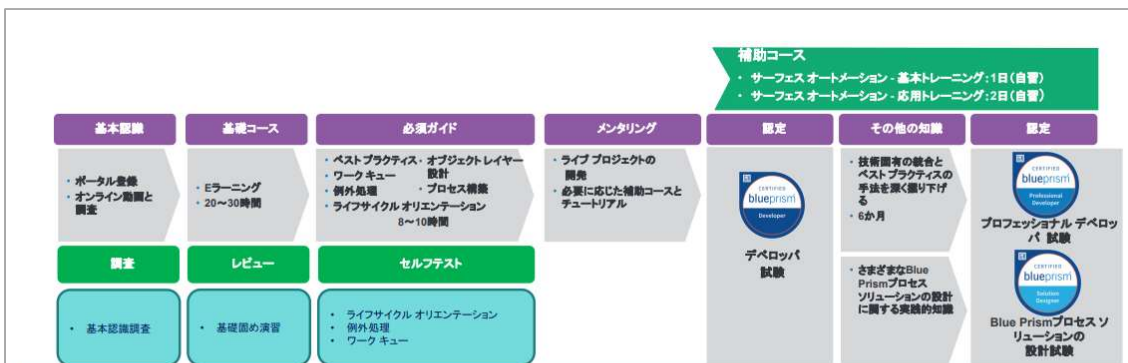


2-2. トレーニングパスとステップアップの流れの整備 トレーニングマテリアルと認定試験

6
スタッフ



開発者の育成、スキル向上、ステップアップ、チーム拡大を促進する仕組み、それを支えるトレーニングパスとマテリアルの整備することが重要です



【リード開発者】
 ・プロセス分析、ソリューション設計
 ・プロセス設計書、オブジェクト設計書のレビュー
 ・構築されたプロセス・オブジェクトのレビュー

ステップアップ

【開発者、入門/開発候補者】
 ・プロセス設計書、オブジェクト設計書の作成
 ・プロセス・オブジェクトの構築・テスト

Blue Prismポータル

ガイドとテンプレート

- スケジューラー
- ワークキュー
- Webサービス
- カレンダー
- プール
- プロセス定数
- コントローラ
- メインフレーム自動化
- サポートリクエスト依頼

リソース管理

- サポートアナリスト
- ライフサイクルオリエンテーション
- 例外処理
- 自動化の拡張
- ログインエージェント
- 認証マネージャ

メインフレーム自動化

- メインフレーム自動化
- オブジェクトレイヤー
- OCRでのテキスト読み取りガイド
- プロセスおよびオブジェクトテンプレート
- サンプルライブラリ

ビジュアルライブラリ

- MAPIEX
- OleDb
- SQL
- SMTP
- MS Excel
- MS Word
- Active Director
- コレクション
- 日付と時刻

Delivering the world's most successful digital workforce.

Step	項目	日数	備考
1	Foundation Trainingの実施	2-3	
2	Foundation Training内Consolidation Exerciseの実施とレビュー	1-2	
3	以下の追加ガイド文書の読み込み ・Work Queues Guide ・Exception Handling Guide	1	PortalサイトのDocument
4	Self Testの受講 ・Work Queues ・Exception Handling	0.5	PortalサイトのLearning > LMS
5	以下の追加ガイド文書の読み込み ・Object Design Guide ・Process Creation Guide ・Solution Design Overview ・Development Best Practice	2	PortalサイトのDocument
6	Self Testの受講 ・Object Layer Design	0.5	PortalサイトのLearning > LMS
7	Lifecycle Orientation Trainingの実施	1.5	PortalサイトのLearning > Lifecycle Orientation
8	Self Testの受講 ・Lifecycle Orientation	0.5	PortalサイトのLearning > LMS
9	以下の追加ガイド文書の読み込み ・Environment and Session Variables ・Browser Automation ・Excel Automation	2	PortalサイトのDocument
10	Advanced Consolidation Exerciseの実施	3	PortalサイトのLearning > ACE
11	中級者ワークショップ (ベストプラクティス講座)	0.5	クラス形式での受講
	合計	約15日	



29 Commercial in Confidence

2. スキル蓄積の仕組み作り

参考資料

6
スタッフ



■ 基礎トレーニング (Foundation Training)

<https://portal.blueprism.com/documents/standard?title=Foundation+Training&category=All&lang=1384>

■ Basicトレーニング - DX サイト

<https://digitalexchange.blueprism.com/dx/entry/3439/solution/blue-prism-basic-training-labs>

■ 認定試験パス

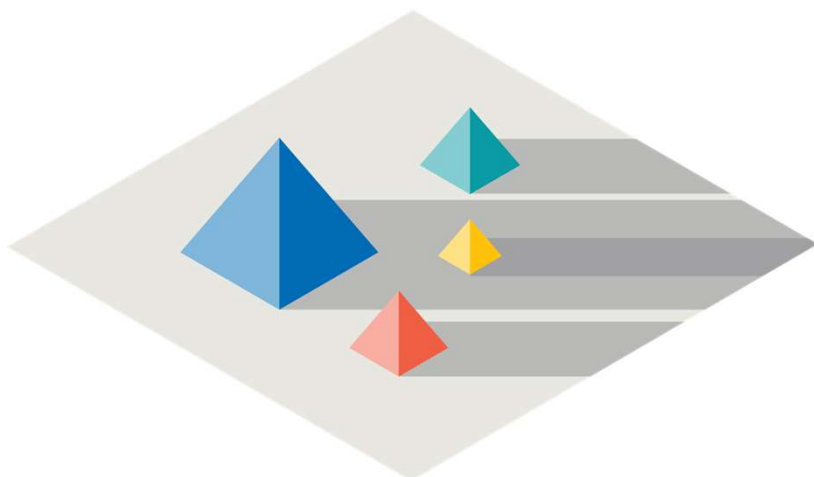
<https://university.blueprism.com/certification>

■ Blue Prism University ※eLearningサイト

<https://university.blueprism.com/>

■ ROM - People (スタッフ)

<https://portal.blueprism.com/robotic-operating-model/people>



31 Commercial in Confidence

先ず最初に
取り組むべきポイント

3.組織の役割定義とガバナンス

ss&c | blueprism®

31

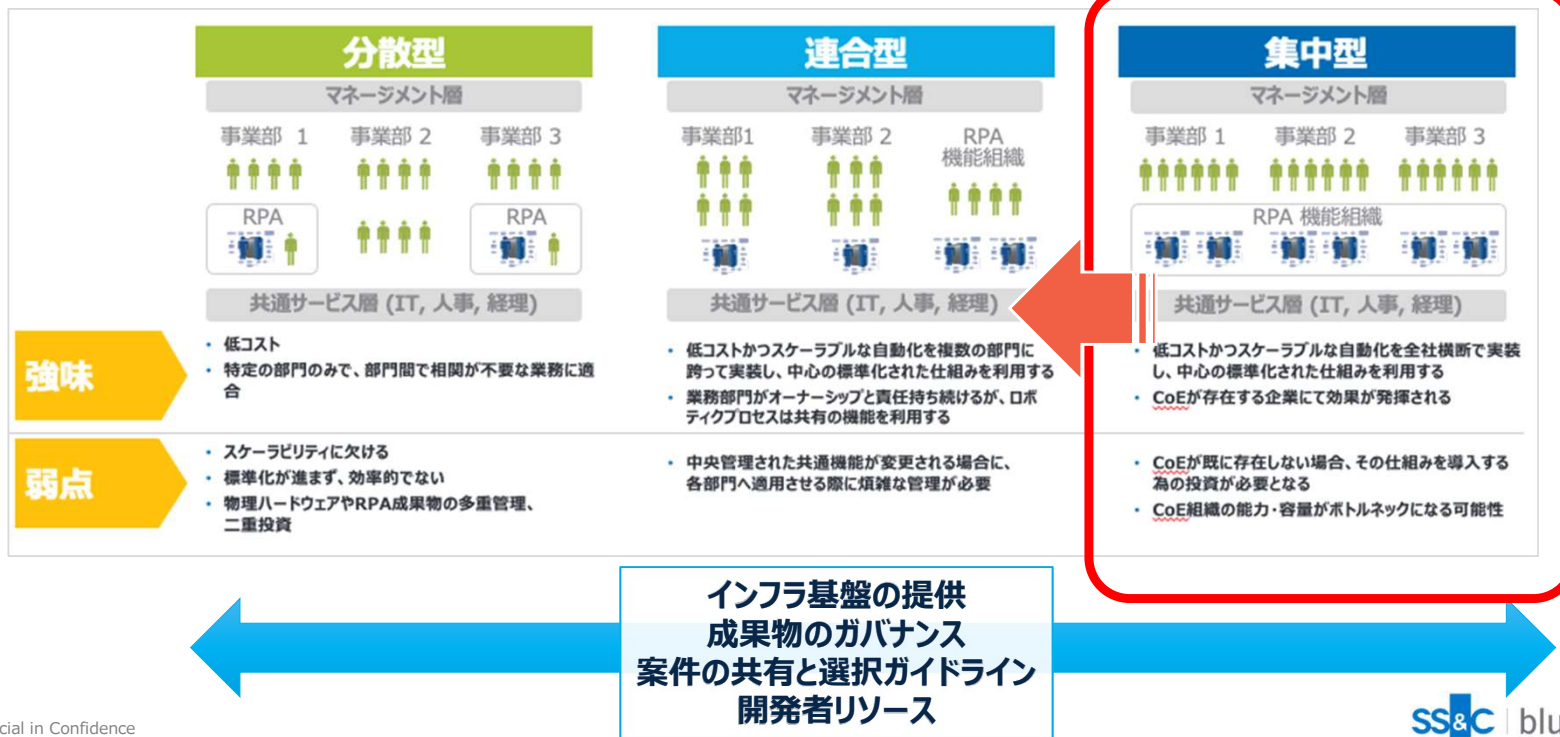
32

Commercial In Confidence

3-1. 中央推進チームの役割定義

導入推進体制の組織モデル – 集中型のCoE組織の整備

導入推進体制の在り方、目指すかたちは、企業文化、ビジネスモデル、展開度合いで定義します
 初期導入フェーズでは、集中型から始めることで、ガバナンスを効かせつつ、効果を早期に刈り取ることが可能



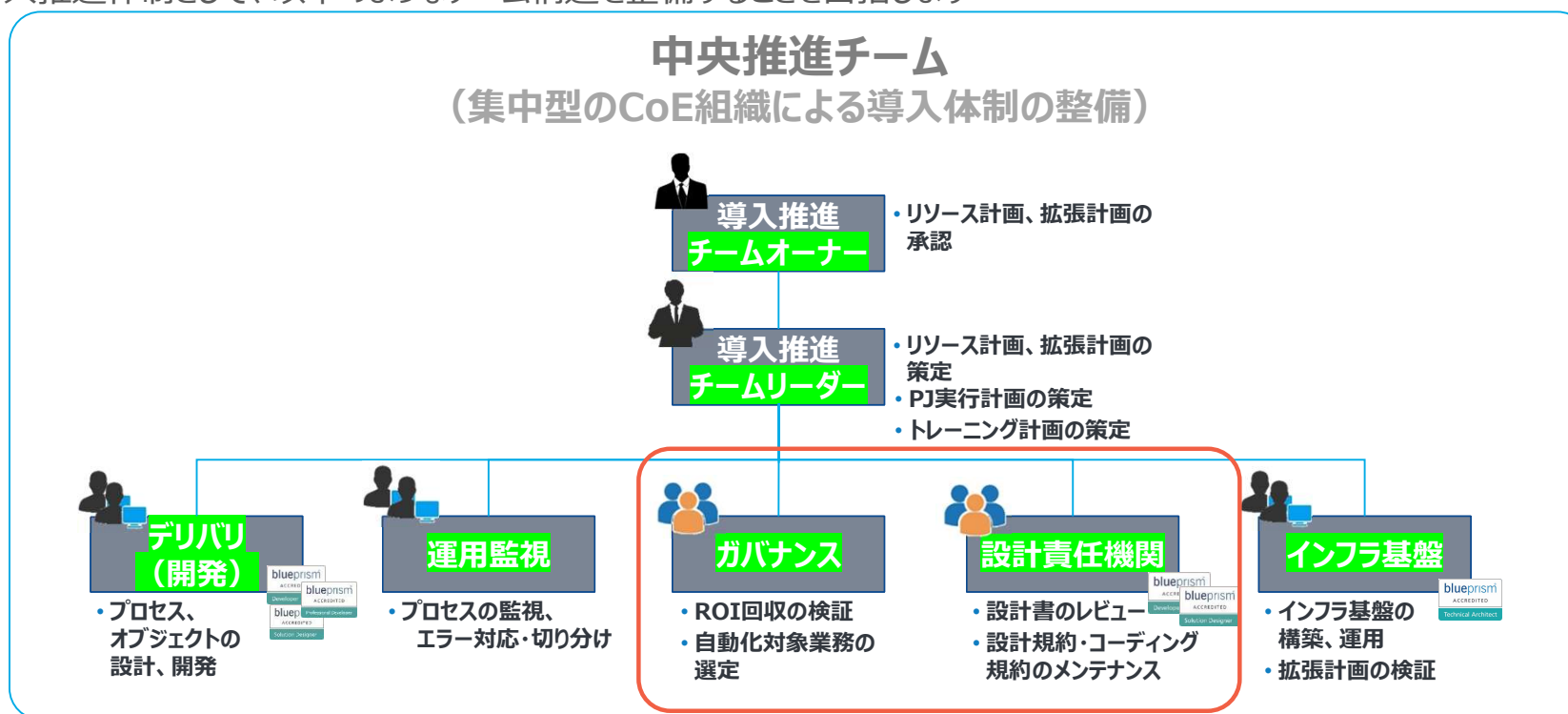
3-1. 中央推進チームの役割定義

導入推進体制の組織モデル – 集中型のCoE組織の整備

2
組織

: バーチャル組織

導入推進体制として、以下のようなチーム構造を整備することを目指します



33 Commercial in Confidence

ss&c | blueprism[®]

33

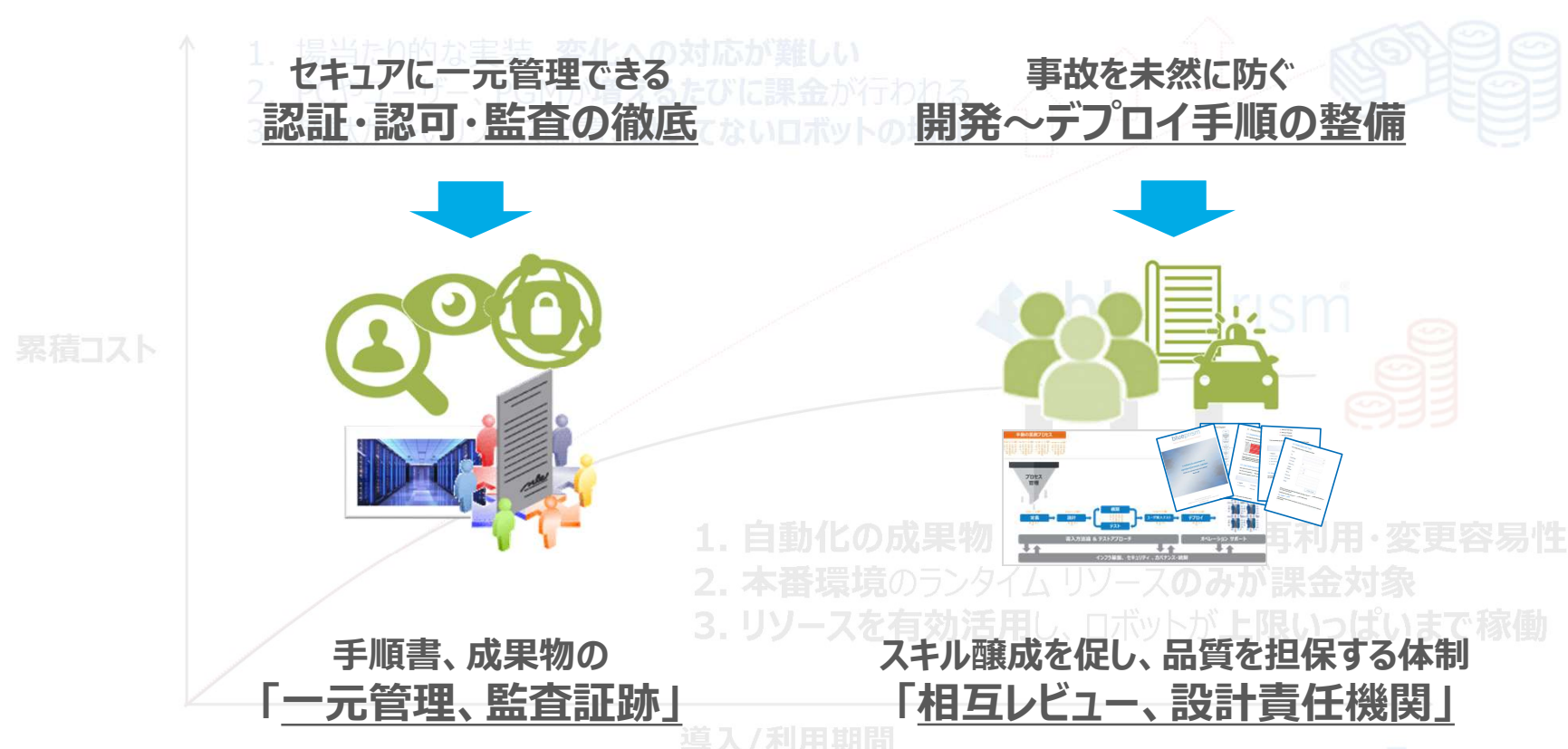
34

Commercial In Confidence



3-2. ガバナンス組織の整備

再利用が可能で、効率的なデジタルワーカー構築を実現する、管理運用ベストプラクティス





3. 組織の役割定義とガバナンス

参考資料

- ROM – Organization (組織)

<https://portal.blueprism.com/robotic-operating-model/organization>

- Delivery Roadmap ※設計・構築工程で作成が推奨されるドキュメントとその概要

<https://portal.blueprism.com/system/files/2018-04/Delivery%20Roadmap%20%28Japanese%29.pdf>

- 設計責任機関に関するガイド文書 ※英語のみ

<https://portal.blueprism.com/documents/standard?title=Design+Authority&category=All&lang=1382>

- 設計コントロールチェックリスト (DCC)テンプレート ※英語のみ

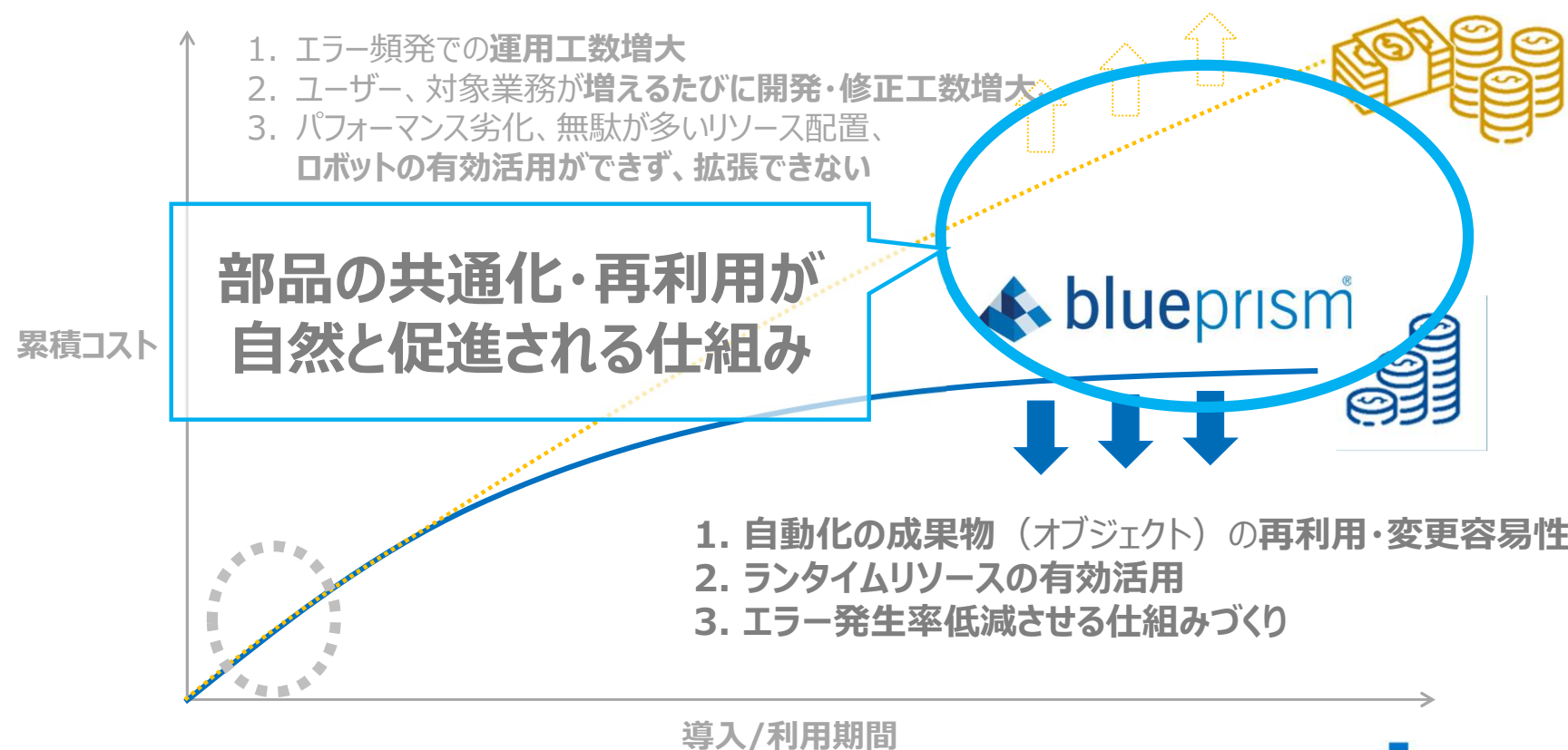
<https://portal.blueprism.com/documents/design-control-checklist-dcc-template>

- ソリューション設計書 (SDD) チェックリスト ※英語のみ

<https://portal.blueprism.com/documents/solution-design-document-sdd-checklist>

ROM – まとめ

取り組む際に、先ず「拠り所」とすべき観点：ガバナンスと…



36 Commercial in Confidence

ss&c | blueprism®

36

37

Commercial In Confidence



Commercial in Confidence

© 2020 Blue Prism Limited. "Blue Prism", the "Blue Prism" logo and Prism device are either trademarks or registered trademarks of Blue Prism Limited and its affiliates. All Rights Reserved.

37

38

Commercial In Confidence